

馬と回転式砕土機による耕耘  
昭和31年 砺波市小島  
(写真提供：新藤正夫)

日本人の生活形態は、昭和三十年代から始まった高度経済成長により一変し、それまで大切に使われてきた民具類は不要になり、処分されるようになりました。

「このままでは先人の知恵と努力の歴史が失われてしまう。」多くの人々のそのような思いから、昭和五十八年、砺波郷土資料館は、砺波市内を中心に県内各地から民具の寄贈を受け、収集保存が行われるようになりました。

砺波郷土資料館では、民具はその一つひとつが貴重な文化財であるとの認識のもと、すでに収集している民具と同種のものでも収集しました。より多くの民具を収集・調査することで、その進化の歴史や使われていた場所の地域性を明らかにすることが出来ます。

現在も多くの皆様のご協力より民具の収蔵数は増え、数にして約二万三千点(平成二十四年八月現在)を数えるに至っています。

民具館では、その収蔵品の中から折々のテーマに沿ったものを選び、展示しています。

## 砺波市における 民具保存の取り組み

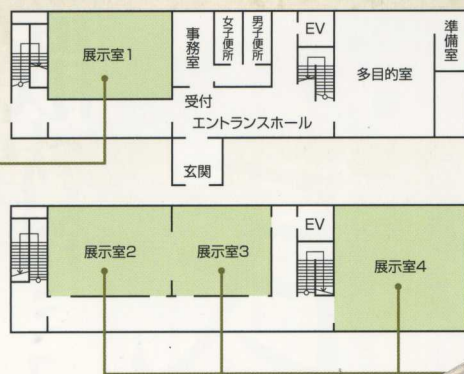


### 展示室1 「企画展示室」



さまざまな企画展示のスペースとして活用しています。

### 施設案内



### 展示室2・3

### 「農具の展示」



展示室2



展示室3

砺波地方の人々の多くは、古くから米づくりに従事してきました。そのため、農具は、生活の糧を得るために非常に重要な道具であり、各農家で大切に受け継がれてきました。

こうした農具の中には、少しでも家族の負担を軽くしたり、米の収量を増やしたりしようと独自に開発・改良されてきたものも多くあります。

砺波地方の農具は、砺波平野における稲作技術の発達の歴史を物語る貴重な資料です。

### 庄川民芸館コーナー 教えて下さいコーナー

季節ごとに庄川民芸館の収蔵品を展示しています。

民具収集の過程で出会った「用途不明」の道具たち。



※庄川民芸館…平成2年(1990年)に岩黒山(庄川町金屋)に片山建設株式会社社長故片山等氏により建設された博物館。平成13年12月、建物と収蔵品が旧庄川町に寄贈され、現在は砺波市教育委員会の所有となっています。



「見たことがある」「聞いたことがある」そんな貴重なご意見をお待ちしています。これはなんだろう?と想像してみるのも楽しいコーナーです。

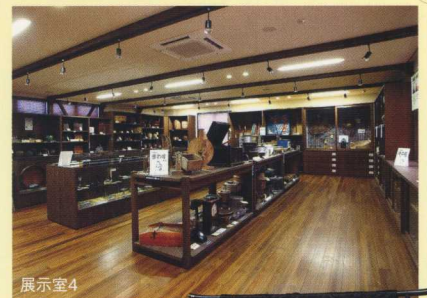
### 展示室4

### 「衣・食・住 生活用具の展示」

主に、農具関係以外の手工業・商業・諸職・運搬・衣・食・住・社会生活の民具を収蔵を兼ねて展示しています。



大工道具



展示室4



照明



着物

となみ散居村ミュージアム tel.0763-34-7180 fax.0763-34-7182

〒939-1362 富山県砺波市太郎丸80番地(北陸自動車道砺波ICより車で約5分) E-mail/museum@city.tonami.lg.jp URL/http://www.city.tonami.toyama.jp

入館料	個人 100円
	20名以上 80円